

北海道立北方民族博物館第29回特別展

船、橇そり スキー、 かんじき



そり遊びをする子どもたち
ロシア・マガダン州/呉人恵氏撮影

北方の移動手段と道具

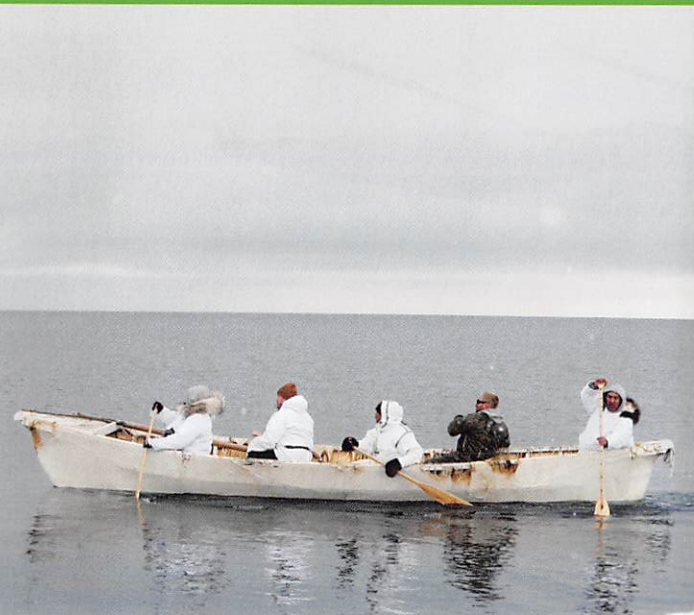
BOATS, SLEDS, SKIS, SNOWSHOES:
TRANSPORTATION DEVICES OF NORTHERN PEOPLES

2014. 7. 12(土)-10. 5(日)

開館時間 9:00-17:00(10月 9:30-16:30)

主催 北海道立北方民族博物館
(指定管理者 一般財団法人北方文化振興協会)

協力 国立民族学博物館 市立函館博物館
函館市北方民族資料館 岸上伸啓氏
呉人恵氏 佐々木史郎氏
新谷暁生氏 齋藤玲子氏 野間口美雄氏



エスキモーの皮舟
アメリカ・アラスカ州 ポイント・バロー/岸上伸啓氏撮影

観覧料

特別展のみ 一般 450 (300) 円 65 歳以上 300 円
高校・大学生 200 (160) 円
特別展+常設展 一般 800 (740) 円 65 歳以上 300 円
高校・大学生 320 (320) 円

※ () 内は 10 名以上の団体料金
※ 小中学生、学校行事の高校生は無料



北海道立北方民族博物館
Hokkaido Museum of Northern Peoples

〒093-0042 北海道網走市字潮見 309-1
(天都山・道立オホーツク公園内)
電話 0152-45-3888 FAX0152-45-3889
指定管理者 一般財団法人北方文化振興協会
<http://hoppohm.org>



ナーナイの樹皮船
ロシア・ハバロフスク地方コンドン村/佐々木史郎氏撮影



ヘヤーのかんじき
カナダ北西部/
原ひろ子氏撮影



コリヤークのトナカイ橇
ロシア・マガダン州/呉人恵氏撮影



三人乗り皮船(市立函館博物館所蔵)／千島列島新知島／アルティーク



イヌ橇(当館蔵)／アメリカ・アラスカ州／エスキモー



板綴り船模型(当館蔵)／北海道／アイヌ

北方民族の用いた船の材料に、丸木、樹皮、動物の皮があります。この素材の違いは、船を使用した北方民族が暮らす自然環境の違いによるものです。最も寒い極北では、皮船が使われました。

船

北方諸民族は海や川、湖、あるいは森林やツンドラなど、さまざまな自然環境のなかで狩猟、漁労、採集活動を営んできました。

水辺の環境では移動や物資の運搬のために船が重要な移動手段となります。また、結氷・積雪期の移動には、橇やスキー、かんじきが重要な役割をはたしてきました。北方地域における移動や運搬の手段と道具は、さまざまな創意工夫によって、その地の材料を用い、その地に適したものが作られ、使用されてきたのです。



トナカイ橇(当館蔵)／ロシア・カムチャツカ地方／コリヤーク

古くは人が牽いていた橇ですが、やがてイヌや飼い馴らされたトナカイを利用して牽引するようになりました。イヌ橇を使用するためには、橇イヌの餌が十分に確保できることが条件でした。トナカイ橇は雪上だけでなく、湿地状のツンドラなどでも利用されました。

そり橇

スキー



ロシア・サハリ州／ウイルタ(当館蔵)



ロシア／ウデヘ(当館蔵)

雪上歩行具は、スキーとかんじきに大きく分かります。北方ユーラシアにみられるスキーの中には、斜面を登る際の滑り止めのために、スキー板の裏面にアザラシなどの毛皮を貼ったものもあります。かんじきは、北アメリカ北部とロシア極東部で使われてきました。

かんじき



カナダ／ヘヤー(当館蔵)



北海道／アイヌ(市立函館博物館所蔵)